



神奈川の海、山、川が織りなす自然の造形美に人々は古より魅了された。江戸時代には浮世絵の題材となり、北斎や広重など風景画の巨匠たちがこぞって各地の景色を写し描いた。それらの絵がさらに人々を魅了し、神奈川へと誘ったが、明治になると、豊かな自然と美しい景色を求め、多くの文化人や政治家たちが移り住む。鎌倉や大磯などに独特の湘南文化が育まれた。

第4章

美しい自然と 景観を誇る 風光明媚な地

神仏習合の聖なる島・江の島

大山詣りとセットになった江戸庶民の巡礼スポット

写真協力 藤沢市



相模湾に浮かぶ江の島(上)は古くから参詣、遊山之地として賑わってきた。島の最奥部にある岩屋(中)は、空海のほか白目上人も修行したといわれ、江の島信仰発祥の地としても崇められている。江島神社の辺津宮(下)は、建永元(1206)年に源平朝が創建。島の玄関口にあたり、神社での祈禱は主にここで行われる。

北斎も広重も描いた 弁財天を祀る美しい島

江の島の由来は「絵島」であるとも聞く。海から突き出た岩山は絵のように美しく、古来、人々の崇敬を集めてきた。北斎や広重など江戸時

代の絵師も好んで題材に選んでいる。太平洋に臨む洞窟の「岩屋」が古くからの信仰の要であった。波の侵食によってできた海蝕洞で、奈良時代に活躍したという修験道の祖・役小角もここで修行したと伝わる。弘仁5(814)年には空海が岩屋

本宮を創建し、その後も慈覚大師らが本宮、上宮、下宮からなる江の島宮の姿を整えたとされる。

江戸時代に信仰の対象となる弁財天が祀られたのは寿永元(1182)年、奥州藤原氏調伏のため、頼朝の命を受けた文覚上人が琵琶湖竹生島の弁財天を勧請したことに始まる。

当時の作である八臂弁財天像は8本の腕に剣や弓矢を持ち、いかにも戦いの女神らしい姿だ。

琵琶を持った姿でも表現される弁財天は、歌舞音曲の守護神としての性格も併せ持つ。江戸時代には歌舞伎役者や琵琶法師といった芸能に携わる人々も多数参拝したという。

江戸で鍼術の修行に励んだ杉山和一は、江の島での行の際、石に躓いたのをきっかけに管鍼法を編み出したと伝わる。その石は「福石」として現在も名所となっている。

江戸時代半ばに流行する大山詣りの帰りに人々が江の島を訪れた。男神の大山に対し、女神の江の島も一緒に参拝することが縁起がいいとされたからである。

参道入口に立つ青銅製の鳥居は文政4(1821)年に再建されたもので、掲げられた額は蒙古襲来(文永の役)に勝利した記念に後宇多天皇から贈られた勅額のレプリカだ。本物は奉安殿に収められている。

列を成して参詣に向う女講中たちが岩屋の前で楽しんでいる様子が描かれた、広重作「相州江の島弁財天開帳詣本宮岩屋の図」。大判縦3枚続の大作(国立国会図書館蔵)



3社からなる 江島神社が鎮座する 相模湾に浮かぶ島



辺津宮のそばに建つ奉安殿。奥重主要文化財の「八臂弁財天」と、日本三大弁財天の「一」携弁財天の「財音弁財天」が安置されている。



延享4(1747)年に創建された江の島の象徴である青銅の鳥居。再建されてから、約200年間の姿を留めている。



姿の違う二つの弁財天。八臂弁財天像(左)は剣を持ち、妙音弁財天像(下)は全裸で琵琶を抱える。この珍しい坐像は女性の象徴をすべて兼ね備えているといわれ、鎌倉時代の傑作として名高い。



美しい自然と景観を誇る風光明媚な地

Cruise

9 神仏習合の聖なる島・江の島

SPECIALTY



名物

湘南の生しらす

1月から3月中旬の禁漁期間を経て、三浦から小田原の相模湾沿岸で水揚げされるしらすは湘南名物の一つ。鮮度が低下しやすいため、獲れた日にしか味わうことができない貴重品。濃厚な旨味を味わうにはしらす丼がおすす。江の島では、参道沿いを中心に多くの店で提供している。「かながわの名産100選」の一つ。

その他おすすめスポット & 情報

弁財天仲見世通り

江の島の弁財天へと続く参道には多くの土産物屋や食事処が並び、いつも観光客で賑わっている。なかでも出汁で煮たサザエを卵でとじて丼にした「江ノ島丼」が名物。最近話題の「たこせんべい」はお土産としても人気。



岩屋

長い歳月を経て波の浸食でできた岩屋は、第1岩屋（奥行 152m）と第2岩屋（奥行 56m）からなる。長年閉鎖されていたが、平成5（1993）年に再開。全長 128m のオープンスペースからは相模湾越しに富士山や箱根・伊豆方面が一望できる。



遊覧船べんてん丸

片瀬と島の西端、稚児が身投げをしたという伝説の稚児ヶ淵を結ぶ遊覧船。海上から江の島や周辺の景観が楽しめる。運航は海の状態にあわせて不定期のため事前の問い合わせを【電話】0466-22-4141（藤沢市観光センター）【料金】一般 400円



江の島エスカ

昭和34（1959）年につくられた国内初の屋外エスカレーター。全長は106mで、高低差46mを四つのエスカレーターで結ぶ。歩くところ4分、乗る4分で上れる。1区間だけ、途中からの利用も可能【料金】一般 360円（全区間）



片瀬江ノ島駅

小田急電鉄江ノ島線の片瀬江ノ島駅舎は竜宮城を模した独特なデザイン。住民や観光客に長年親しまれてきたが、老朽化と駅前の再整備のため、約90年ぶりに建て替えられることとなった。竣工は2020年の東京五輪にあわせる予定。



片瀬漁港直売所

片瀬江ノ島駅近くの片瀬漁港には直売所も。沖の定置網からその日揚げされた魚を販売する。朝9時から昼までで売り切れ次第終了となる（土曜定休）。毎月第1日には市内で採れた野菜を販売する朝市も開催。その日は魚も特別価格で販売される。



Course 9

神仏習合の聖なる島・江の島

おすすめコース

- ～ 徒歩 ● 船
- 小田急・片瀬江ノ島駅～江の島弁天橋～青銅の鳥居～弁財天仲見世通り～岩本楼～江の島エスカ～江島神社（辺津宮など）～サムエル・コッキング苑～江の島シーキャンドル～江の島岩屋～遊覧船べんてん丸乗り場（江の島側）～遊覧船べんてん丸乗り場（片瀬江ノ島側）～小田急・片瀬江ノ島駅

S P O T

立ち寄り所



新江ノ島水族館

遊びながら学ぶことができるエデュテインメント型水族館。富士山など美しい景観を背景にパフォーマンスする「イルカショースタジアム」は必見。オーシャンデッキも人気が高い【住所】藤沢市片瀬海岸2-19-1【電話】0466-29-9960【営業】9:00～20:00（季節による変動あり）、年中無休【入場料】大人2100円 <http://www.enosui.com/>



島内には明治の英国貿易商の名前に由来する植物園の江の島サムエル・コッキング苑が。世界の珍しい植物が植えられ、亜熱帯植物が自然状態で栽培されている地としては日本最北限とも。



湘南のシンボルとして親しまれる江の島シーキャンドル（展望灯台）は、平成14（2002）年の江ノ電開業100周年事業の一環として建設された。入場料は江の島サムエル・コッキング苑とセットで一般500円。9:00～20:00（最終入場19:30）

Epirade 逸話

江戸時代の神仏習合と明治時代の廃仏毀釈

慶応3（1868）年の王政復古で天皇に政権が戻った同年、「神仏判然令」も発令された。それまでの神仏習合から分離へと舵が切られる。仏教体制から神道体制へと変わり、各地で廃仏毀釈が行われた。その程度はまちまちで、僧たちが神官となり、結果的に廃寺になったところもあり、積極的に廃仏毀釈を行ったところもあった。ただ、神仏習合に長らく慣れていたこともあり、ほどなく落ち着きを取り戻し寺は復活する。しかし、その過程で失ったものも少なくはなかった。



江島神社参道に立つ藤原宮本様の歴史を伝える碑。かつて本院という別当寺があったところで僧坊を営んでいた。

明治の廃仏毀釈で宗像三女神を祀る

江戸から近い江の島は、大山とセットにしても数日間の小旅行といった趣向で、娯楽好きの江戸っ子にとっては気軽な巡礼スポットだった。明治になり、他の社寺と同じように神仏習合の聖地だった江の島も廃仏毀釈によって大きな転換を強いられる。僧侶は僧籍を離れて神職となり、三重塔や楼門などが失われた。弁財天信仰も改められた。海運を司る宗像三女神、すなわち奥津宮の多紀理比賣命、中津宮の市寸島比賣命、辺津宮の田寸津比賣命が祭神として据えられ、江島神社と号す。大正、昭和となり、江の島は近代的な行楽地へと変貌する。昭和39（1964）年に開催された東京オリンピックではヨット競技会場にも選ばれ、埋め立てが行われるなど島の姿は大きく変わった。現在はかつてあった三重塔のように、江の島シーキャンドルが建ち、島のシンボルとなっている。次回の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でもセーリング競技が開催される予定で、江の島はこれからも変化を続けていくことであろう。